紹介　地域連携オフィス　―信州大学人文学部

和田　敦彦

地域連携オフィスとは

図1

信州大学の人文学部におかれた地域連携オフィスは、大学と、大学をとりまく地域と連携、協力しあった研究、教育を支援するために活動しています。本誌『地域ブランド研究』の編集や地域ブランド研究会の事務局を今年より担っているのもこの地域連携オフィスです。ここでは、本格的に活動をはじめたこのオフィスの活動について、紹介させていただきます。なお、オフィスのホームページも開設されておりますので是非ご覧下さい（図1　地域連携オフィスホームページ　http://fan.shinshu-u.ac.jp/iinkai/chiikirenkei）。

地域連携オフィスは、大学と地域とで連携し合った教育、研究をサポートするために生まれました。そして、このような研究、教育の実践の意義や価値を積極的に評価し、発信する活動を支援しています。地域と大学との交流、提携、連携の窓口となり、地域からの要請を受け止め、大学、地域ともに有益な事業を構想する活動を支えているのです。

また、これら地域と連携した活動等の実績を記録、管理し、将来の

大学、学部構想や、カリキュラム構想に有益な情報の管理をしており、いわば人文学部の対外的な活動の記録係のような役割も担えれば、と考えています。

地域連携オフィスの主な活動

地域連携オフィスの活動は主に以下のような活動から成り立っています。

1　地域と連携した教育活動の支援

図2　市民と共に葛尾城の実地調査にあたる本学教員

信州大学人文学部の教育活動を向上させるため、地域と共同した教育の取り組み、教材開発や教育実践を支援しています。そして、その障害となる問題についての情報を集め、その円滑な運用のための方策を検討、提案してゆきます。

2　研究プロジェクトの支援

信州大学人文学部のかかわる地域と連携した研究活動をバックアップしてゆきます。「地域ブランド研究会」の運営事務（大会企画、連絡、開催、会誌発行）もこの中に入っています。また、地域連携にかかわるテーマであれば、科学研究費や助成金などによる研究課題についても、積極的に支援業務を行っています。

3　地域と連携した教育、研究の情報管理

これまで、個々の教員、あるいは研究室で、地域と連携し、様々な教育、研究上の成果を人文学部ではあげてきています。しかし、それらの実績をきちんと記録し、大学の積極的な地域連携の取り組みとして評価し、広報する仕組みがこれまで整備されてきてはいませんでした。連携オフィスでは、これらの貴重な実績を記録、整理し、積極的な人文学部の価値として発信できるようにすることをめざしています。

4　広報、成果の発信

地域連携オフィスの広報パンフレット、ホームページを整備し、その業務を明確にするとともに、地域連携オフィスで集約した教育、研究の実績を効果的な形で発信してゆきます。また、その活動についてホームページや各種印刷物を通して公開、報告してゆきます。このコラム、そして本号巻末の活動記録もそうした活動の一環です。

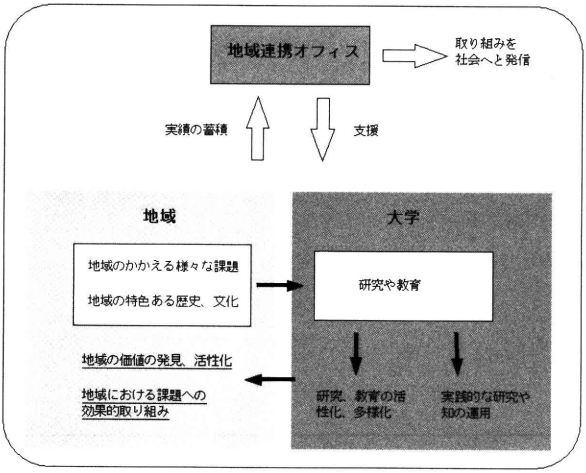

図３　オフィスの業務概要

5　地域連携オフィスの維持、管理

これらの業務を行うために、資料の整理、管理を行う地域連携オフィスを整備し、そこにこれまでの、また今後の関連資料を収集、整理してゆくこととなります。また、連携オフィスに関連する業務についての連絡を一元化し、効果的に管理するために、関連業務の連絡窓口として運営することとなります。

これらが、信州大学人文学部におかれた地域連携オフィスの活動や目的、仕組みです。今年から本格的に動き始めたこともあり、いまだ準備、経験不足の面もありますが、関係の方々には今後ともご助力、ご協力をお願い申し上げます。また、大学との共同研究や受託研究をお考えの自治体、企業の方々に向けての窓口となってもいますので、そうしたプランやご相談についてもオフィスにお寄せ下さい。

問いあわせ先
〒390-8621 長野県松本市旭 3－1－1
信州大学人文学部　地域連携オフィス
メールアドレス　jrenkei@shinshu-u.ac.jp

（わだ・あつひこ／信州大学人文学部助教授）